

令和5年度熊野古道協働会議・第1回分科会 (持続可能な保全体制づくり)

1. 分科会の目的・参加者	p.2
2. 令和4年度分科会の振り返り	p.4
3. スケジュール	p.6
4. 伊勢路全体の保全を統括する組織の検討	p.8
(1) 保全活動の望ましいスタンダード(標準)	
(2) 伊勢路全体に必要なリソース(投入する担い手・資金)	
5. 担い手確保・資金確保策	p.18
(1) 企業・団体への協力依頼	
(2) 先進事例のさらなる共有	
6. 熊野古道サポーターズクラブ	p.26
(1) 令和4年度活動報告	
(2) 令和5年度活動計画	

令和5年8月9日 熊野古道協働会議事務局 作成 1

1. 分科会の目的・参加者

● 分科会の目的(熊野古道アクションプログラム3 追記編 より)

世界遺産登録25周年を迎える年には、伊勢路全域で**持続的な保全の仕組み**が構築されていることをめざし、分科会で検討し**工程表を作成**します。

→ **令和4年度に作成した工程表に沿って、継続検討**

● 関係団体の担い手確保

企業のCSR活動によるご協力を得るなども含めた**新たな担い手確保策の積極的導入**や、臨機応変に保全活動を支援できる仕組みや方法についても検討します。

● 保全活動に係る資金確保

クラウドファンディングなど**あらゆる資金確保策**を検討します。

● バッファゾーンの森林管理のあり方

● 分科会の参加者

座長 玉津 充 氏（海山熊野古道の会）

副座長 西山 光雄 氏（二木島峠・逢神坂峠世話人会）

奥村 清司 氏（熊野古道伊勢路を守る会）

出口 眞市 氏（三瀬坂峠を守る会）

三重県教育委員会 社会教育・文化財保護課

委員 熊野古道伊勢路沿線市町の文化財保護担当課

（伊勢市、玉城町、多気町、大台町、大紀町、紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町、紀宝町）

一般社団法人東紀州地域振興公社

三重県（紀北地域活性化局、紀南地域活性化局、南部地域振興局）

* コアメンバーのほか、熊野古道伊勢路にご関心のある方は、どなたでも参加できます。

3

2. 令和4年度分科会の振り返り

● 伊勢路全体の保全を統括する組織

- ・ 伊勢路全体の保全を統括する組織をつくってはどうか。民間がよいのではないか。
- ・ ボランティアを受け入れる際に保全団体をサポートする世話人の組織化を考えていけないといけない。
- ・ エリアごとに、人員の多い保全団体が世話人として統括して見てもらいたい。
- ・ 伊勢路で目指す保全のレベルをどこに設定するかを考え、それにより投入する資金、担い手をどれだけ確保するのか、統括する組織はどうあるべきか議論する必要がある。

● 担い手確保・資金確保

- ・ 各保存会の活動状況について情報共有し、保全の体制（活動状況）・財源に「違い」があることを改めて認識
- ・ 各峠の行政による補助金やパトロールの実施状況について情報共有
- ・ 「担い手確保」と「資金確保」に関する先進事例の共有
- ・ 熊野古道サポーターズクラブ活動について意見交換

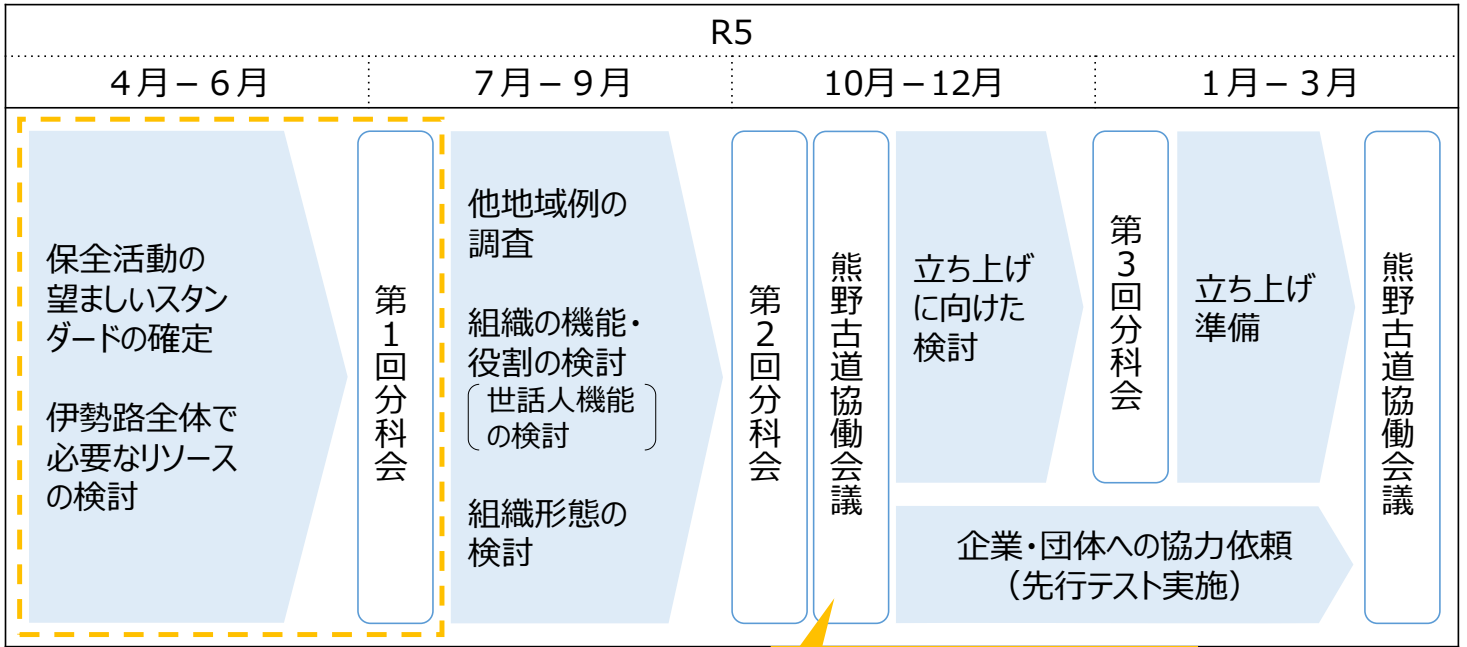
4

持続可能な保全体制づくり 工程表

		R5				R6				R7~R11							
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	R7	R8	R9	R10	R11			
伊勢路全体の保全体制を統括する組織	組織の検討	<ul style="list-style-type: none"> ● 保全活動の望ましいスタンダードの確定 ● 伊勢路全体に必要なリソースの検討 ● 他地域例の調査 ● 組織の機能・役割の検討 (世話人機能の検討) ● 組織形態の検討 ● 立ち上げに向けた検討 				立ち上げ準備				立ち上げ				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 統括組織の機能として、 企業・団体への協力依頼を実施 </div>			
	新たな取組のトライアル実施	<ul style="list-style-type: none"> ● 広報やノベルティなどのインセンティブ ● ニーズに応じて臨機応変に活動できる仕組み ● 継続的な道普請の実施 ● 熊野古道に関する事前学習との組み合わせ 				新たな取組の本格実施				毎年度検証・改善 <div style="text-align: right;"> </div>							
担い手確保	ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業・団体への協力依頼 (先行テスト実施) 				かつて実施していた企業・団体による協力をひとまず復活 <div style="text-align: right;"> </div>				組織設置前後から トライアル実施				検証 トライアル実施 検証 本格運用			
	資金確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業・団体への協力依頼 (先行テスト実施) 				担い手・資金確保の継続検討 (一部、先行テスト実施)				<ul style="list-style-type: none"> ● 企業・団体への協力依頼 (先行テスト実施) 							

一体的に検討

3. スケジュール



分科会でまとめた統括組織の案を熊野古道協働会議に提示

4. 伊勢路全体の保全を統括する組織の検討

● 検討項目・内容のイメージ

(ア) 保全活動の望ましいスタンダード（標準）

保全活動を通じて目指す伊勢路の姿

例：「文化的価値が保たれ、安全で快適に歩ける伊勢路」

【これまでの分科会でのご意見】

- 国史跡として最低限必要なレベルは、峠の文化財区間を歩いて踏破できること。保全団体には、いかに快適に歩けるか、という部分を担っていただいていると思う。
- 「三重県 熊野参詣道 保全マニュアル」を確認して、これを基に保全活動を進めていけばよいと分かった。市町とも協力して進めていければ、保全活動の共通認識ができると思う。
- 伊勢路全域の保全を考える視点が必要であり、未登録区間も「三重県 熊野参詣道 保全マニュアル」に準じればよい。

8

(イ) 伊勢路全体で必要なリソース（投入する担い手・資金）

例：伊勢路全域での年間必要人員 - 現行の年間投入人員 = 今後、獲得を目指す人員数
伊勢路全域での年間必要資金 - 現行の年間公的資金 = 今後、獲得を目指す資金額

⑨ 各峠やエリアからの積み上げが必要と認識しています。

また、配分にあたっては、峠の距離や荒れ具合などに応じる必要があると考えています。

(ウ) 組織の機能・役割

例：ボランティアや寄附金の受け入れ、世話人機能の発揮、保全と活用の推進 等

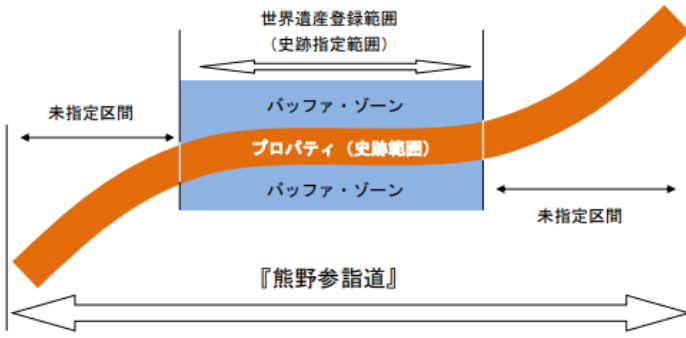
(エ) 組織形態（どのように立ち上げるか）

9

4 (1) 保全活動の望ましいスタンダード (標準)

保全活動を通じて目指す伊勢路の姿

「文化的価値が保たれ、安全で快適に歩ける伊勢路」



(三重県 熊野参詣道 保全マニュアル より)

(熊野古道アクションプログラム3 追記編 より)



10

プロパティ、バッファ・ゾーン、未指定区間はそれぞれの法や条例等で保護されており、文化庁との協議や許可・届出が必要な場合があります。

プロパティ

- **現状保存が前提**
- 日常的な維持管理の行為や参詣道の修復や整備・活用のための行為は現状変更にはならない
- 清掃活動、流出した土砂の補充、流入した土砂の撤去、外れた石を元の位置に戻す作業、除草作業、樹木の枝打ち、倒木の撤去等は、日常の維持管理とみなせる

バッファ・ゾーン
未指定区間

原則、プロパティの基準に合わせて保全活動を行う

ただし、各種法令に基づいて、現状保存だけでなく、より安全に歩けるよう積極的に整備する

11

4 (2) 伊勢路全体で必要なリソース（投入する担い手・資金）

伊勢路を3つのエリアに分けて、保全活動の望ましいスタンダード（標準）を実現するために必要な担い手・資金を算出。

伊勢エリア：女鬼峠保存会、大台町ふるさと案内人の会、三瀬の渡し保存会、三瀬坂峠を守る会、膳

紀北エリア：ツツラト峠を世界につなぐ会、荷坂峠まもる会、始神峠を守る会、海山熊野古道の会、馬越峠道普請隊、八鬼山を愛する会、ルーパーの会

紀南エリア：二木島峠・逢神坂峠世話人会、熊野レストレーション、熊野あられ隊、だんだんの会、熊野古道サポートセンター、くまのエコツーリズム研究会、横垣・風伝峠保存会、熊野川体感塾

①伊勢路全域での年間必要人員 - ②現行の年間投入人員 = ③今後、獲得を目指す人員数

スタンダード

平均的な活動内容を
設定して算出（※1）

伊勢エリア 495人
紀北エリア 792人
紀南エリア 792人
計 2,079人

R4調査より（※2）

伊勢エリア 395人
紀北エリア 477人
紀南エリア 523人
計 1,395人

①と②の差

伊勢エリア 100人
紀北エリア 315人
紀南エリア 269人
計 684人

12

理想

平均的な活動内容を
設定して算出（※1）

伊勢エリア 745人
紀北エリア 1,192人
紀南エリア 1,192人
計 3,129人

R4調査より（※2）

伊勢エリア 395人
紀北エリア 477人
紀南エリア 523人
計 1,395人

①と②の差

伊勢エリア 350人
紀北エリア 715人
紀南エリア 669人
計 1,734人

④伊勢路全域での年間必要資金 - ⑤現行の年間公的資金 = ⑥今後、獲得を目指す資金額

⑤に超過分・必要分を
計上（※3）

伊勢エリア 95万円
紀北エリア 160万円
紀南エリア 135万円
計 390万円

支援限度額により算出
（※4）

公社 200万円
（財源は寄付金）
町独自 40万円
計 240万円

④と⑤の差

計 150万円

目指すべき目安

13

(※1) 「①伊勢路全域での年間必要人員」の考え方

活動内容を、②パトロール ①草刈り等の作業 ③その他、必要に応じた対応 に分類し、各保全団体でそれぞれの活動に必要な人数と活動頻度を設定して算出しています。
なお、八鬼山越えは距離の長さを考慮して、必要な人員は2倍としました。

スタンダード

- ②パトロール
：各保全団体で月1回・1人 (1人×1回×12月×団体数)
- ①草刈り等の作業
：各保全団体で月2回・3.5人 (3.5人×2回×12月×団体数)
- ③その他、必要に応じた対応
：各保全団体で年1回・3人 (3人×1回×団体数)

理想

- ②パトロール
：各保全団体で月1回・2人
- ①草刈り等の作業
：各保全団体で月2回・5人
- ③その他、必要に応じた対応
：各保全団体で年1回・5人

(※2) 「②現行の年間投入人員」の考え方

昨年度に実施した保全団体への調査・ヒアリング結果を基に算出しています。
なお、実際の活動においては変動があることから、あくまで参考数値とします。

14

(※3) 「④伊勢路全域での年間必要資金」の考え方

「現行の年間公的資金」に、以下の金額を計上して算出しています。

- ・現状の活動資金が東紀州地域振興公社による支援限度額を超えている（または限度額に近い）8団体については、超過分を5万円と仮定
- ・現状の体制では実施できていない道普請を行う場合の土代や、橋の架け替えに必要な材料代等を勘案して、1団体あたり5万円を計上

(※4) 「⑤現行の年間公的資金」の考え方

東紀州地域振興公社および各市町が行う公的資金の支援限度額により算出しています。
なお、県・市町教育委員会等が実施するパトロール事業については、保全活動に対する支援とは異なるため、除外しています。

- ・東紀州地域振興公社による熊野古道保全支援事業：1団体あたり10万円
- ・多気町観光協会観光振興団体助成金：1団体あたり10万円
- ・紀北町による活動費補助金：予算額30万円

15

● 紀北町熊野古道連合会

紀北町内の4団体で連合会を設立 R5.4.1

- ・海山熊野古道の会（馬越峠）
- ・始神峠を守る会（始神峠）
- ・ツヅラト峠を世界につなぐ会（ツヅラト峠）
- ・荷坂峠まもる会（荷坂峠）

各団体が連携して、各峠道の保全活動や情報共有を図る

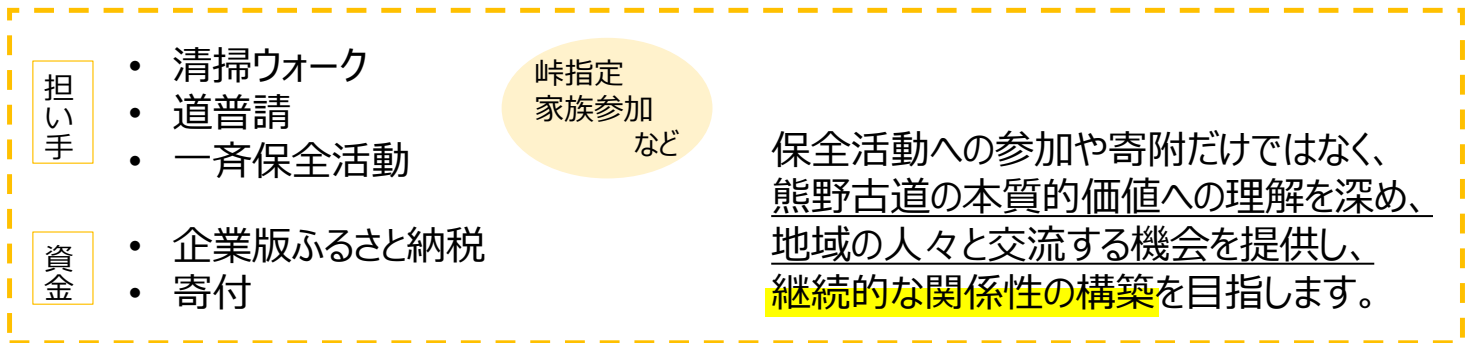
- ①各峠維持管理の相互補完
- ②情報共有と情報交換
- ③イベントの共同開催
- ④その他

※連合会の設立後も、各団体での活動は続けていく

5. 担い手確保・資金確保策（1）企業・団体への協力依頼

● 先行テスト実施

令和5年度は、熊野古道サポーターズクラブ法人会員や、協力の申し出がある企業等と協力して、先行テストを実施していきたいと考えています。



支援方法のプログラム化や
PRチラシの作成など

企業・団体への
協力依頼

先行テスト実施

18

● 企業版ふるさと納税制度

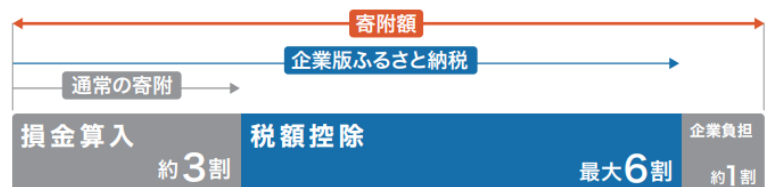
国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対して、企業が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組み

（制度の対象となる寄附）

- 県外に本社をもつ企業からの寄附
- 1回あたり10万円以上の寄附
- 地域再生計画に位置付けられる事業に対する寄附

（留意事項：制度の対象外となる寄附）

- 寄附を行うことの代償として経済的な利益の供与がある場合
- 従来から継続している事業に対する寄附であって、寄附の有無が事業内容（量および質）に何の影響も及ぼさない場合
- 寄附額が単年度の事業費を超える場合



軽減効果は
最大9割！

19

5 (2) 先進事例のさらなる共有

(担い手確保)

- 白神山地の企業研修プログラム【青森県】
 - 保全体験ツアー【株式会社ヤマップ】
- 今回、新たに紹介

- マatchingサイト【株式会社おてつたび】
- 道普請ウォーク【和歌山県世界遺産センター】

(資金確保)

- 企業版ふるさと納税制度/白神山地保全推進事業【秋田県】
- 寄付金【認定NPO法人フローレンス】
- クラウドファンディング【田辺市熊野ツーリズムビューロー】
- YAMAP FUNDING【株式会社ヤマップ】
- 利用者参加制度【北アルプス登山道等維持連絡協議会】

令和4年度に紹介

● 白神山地の企業研修プログラム【青森県】

- 白神山地をフィールドとした企業向け環境保全研修プログラムを開発し、地元の宿泊施設運営会社が研修の受け入れを行う仕組みを構築。
- 研修プログラムの開発過程では、モニターツアーを実施し、4社6名が参加。
- 1泊2日の研修プログラムでは、白神山地の自然環境や多様な生態系、水の循環を学ぶとともに、ワークショップ等を通じて、チームビルド等の人材育成機会となる。
- SGDs（持続可能な開発目標）の達成につながるなど、プログラム参加による企業へのメリットが整理されている。

プログラムの一例

ブナの森が育む海の生き物とその危機

時間	訪問先	内容
【1日目】 10:00	アオーネ白神十二湖 ヤマセミ研修館	集合：歓迎の挨拶と研修プログラムの説明
10:10- 10:40	白神十二湖 エコ・ミュージアム	座学：「白神山地」の自然 展示物と解説により十二湖と「白神山地」の概要を学ぶ
11:00- 12:40	十二湖 及びブナ自然林	森と湖の散策：「白神山地」の森を散策～ブナの森と湖を知る 十二湖周辺の動植物、ブナの森や生態系、ドングリの木が枯れてゆくナラ枯れ、マタギの文化などを学ぶ
13:30- 15:30	深浦町の海岸 (岩崎海岸、 笹内川河口など)	座学：「白神山地」と対馬海流がもたらす恵みと漂着物 生息する魚類と漁業や海の漂着物がもたらす問題を学ぶ 海辺の観察：漂着物で知る「白神山地」の現状と課題 班に分かれて漂着ゴミを採集し傾向を調べる
16:00- 18:00	アオーネ白神十二湖 ヤマセミ研修館	屋内ワークショップ：「白神山地」のためにできること 人材育成プログラムとして、学びと体験を振り返り、課題解決のアイデアを出し、翌日の取り組み内容を決める
【2日目】 9:00- 12:00	深浦町の海岸	屋外ワークシート：課題解決の試行 前日の議論を通して決めた取り組みを行い、手順や改善点を探りブラッシュアップ
13:00- 14:45	アオーネ白神十二湖 ヤマセミ研修館	まとめ：振り返りと発表 発表後に記念撮影と閉会挨拶 (青森県提供のセールスシートより)

22

SDGs達成への貢献

	4 質の高い教育を 人人に	8 働きがいも 経済成長も	11 住み続けられる まちづくりを	12 つるまじく 消費を	13 気候変動に 適応を	14 海の豊かさ を守ろう	15 陸の豊かさも 守ろう	17 パートナーシップで 目標を達成しよう
①「白神山地」を代表するブナの森と川 でつながる海の生態系について学ぶ	●		●	●	●	●	●	
②ブナの森・海と共生する文化と地域産 業について学ぶ	●		●	●	●	●	●	
③人と自然の関わりと共生の在り方につ いて考える力を養う	●	●	●	●	●	●	●	●
④森と海の自然環境保全につながる取り 組みを考え試行する			●	●		●	●	●
⑤チームワークで課題解決に挑戦する 実践的な学びの機会となる	●		●	●				●
⑥「白神山地」と関わる人が増加し、持 続可能な地域社会の発展が期待できる		●	●					●

(青森県提供のセールスシートより抜粋)

23

● 保全体験ツアー【株式会社ヤママップ】

岐阜県飛騨市 池ヶ原湿原 ヨシ刈りツアー <https://yamap.com/magazine/38041>



新潟県妙高市 火打山 登山道整備ツアー <https://yamap.com/magazine/41576>



- 保全活動において、保全技術の継承、人員や予算の確保などに課題が生じる中、登山アプリ「YAMAP」ユーザーが、楽しみながら保全体験できるツアーを実施。
- ツアーに参加することで、地域の人や仲間との交流を通じて、地域のファンになってもらい、持続的に保全活動に参加するきっかけとなる。
- 池ヶ原湿原のヨシ刈りツアー（1泊2日2万円）には、10名定員に対し70名を超える応募があり、保全活動をしている人たちに対して、「手伝いたい」「役に立ちたい」というニーズがあることが分かる。

24



(登山道整備の様子)



(ヨシ刈りの様子)



(町の散策)



(ツアーの振り返り)

(上記URL ツアーレポートより)

25

6. 熊野古道サポーターズクラブ（1）令和4年度活動報告

令和4年度は6つの峠で清掃ウォークを企画し、10月から3月にかけて、総勢約150名の方にご参加いただきました。

顔の見える関係づくりにつなげられるよう、逢神坂峠の活動後に交流会を開催したり、地域のボランティア団体の活動日に合わせて、三瀬坂峠では平日に開催するなど、新たな取組も実施しました。

第1回	10月23日	大吹峠	熊野レストレーション	参加会員14名
第2回	11月26日	始神峠	始神峠を守る会	参加会員22名
第3回	12月11日	馬越峠	海山熊野古道の会	参加会員12名
		大吹峠	熊野レストレーション	参加会員 3名
第4回	2月18日	逢神坂峠	二木島峠・逢神坂峠世話人会	参加会員10名
第5回	2月23日	女鬼峠	女鬼峠保存会	参加会員17名
第6回	3月24日	三瀬坂峠	三瀬坂峠を守る会	参加会員 7名

<https://www.kodo.pref.mie.lg.jp/supportersclub/index.html>



26

保全活動体験の様子



(10月23日 大吹峠)



(11月26日 始神峠)



(12月11日 馬越峠)



(2月18日 逢神坂峠)



(2月23日 女鬼峠)



(3月24日 三瀬坂峠)

27

6 (2) 令和5年度活動計画

令和5年度は10月以降に8か所での活動を予定しており、本分科会等でのご意見も参考にしながら、新たな取組も試行していきます。

なお、実際の活動にあたっては、保全団体や市町等と調整のうえ、個別に実施内容を検討していきます。

第1回	10月	熊野川河原	熊野川体感塾
第2回	11月初旬	松本峠	だんだんの会
第3回	11月中旬	始神峠	始神峠を守る会
第4回	11月下旬	三瀬坂峠	三瀬坂峠を守る会
第5回	12月中旬	馬越峠	海山熊野古道の会
第6回	1月中下旬	女鬼峠	女鬼峠保存会
第7回	2月中旬	二木島峠・逢神坂峠	二木島峠・逢神坂峠世話人会
第8回	3月	大吹峠	熊野レストレーション

● 新たな取組の試行案

運営

- 広報やノベルティなどのインセンティブ
- ニーズに応じて臨機応変に活動できる仕組み
- 年間計画及び個別活動の募集を早めに周知
- 活動する峠の難易度の案内

活動

- 継続的な道普請の実施
- 熊野古道に関する事前学習との組み合わせ
- 語り部とのウォークイベント
- お試し清掃ウォーク
- 三重テラスで東京部会の開催
- 法人会員への協力依頼

